

學小

日本修身書

尋常科
生徒用

卷二

檢定申請本

K/20.1
31
2

K 120.1

31

2

稲垣千穎編述

小日本脩身書

東京 成美堂發兌

小日本脩身書卷二

稲垣千穎編述

第一課

ことは。みづ
から。なら
ふ。



童子自衣物著
幼女自帯をし

小日本脩身書卷二

稲垣千穎編述

小日本脩身書

東京 成美堂發兌

小日本脩身書卷二



稲垣千穎編述



第一課

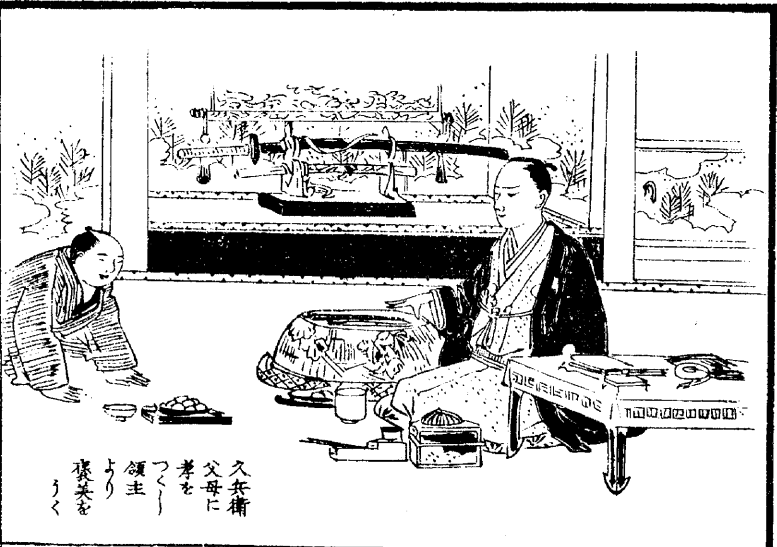
ことは。みづ
 からは。みづ
 からは。みづ
 からは。みづ

孝太郎
母の誠を
守りて
家にかへる



第二課

あちははの
めいには。ー
たがふべー。



久兵衛
父母に
孝を
つく
領主
より
褒美を
うく

第三課

こは。たやに
かうをつく
すべー。



第四課

あに。によろ
しく。ねとう
とによろ
くす。



第五課

きやう。だい
は。ゆびの。ご
と。ながく
は。なる。べか
らず。

清吉親の
為に用を
便す



第六課

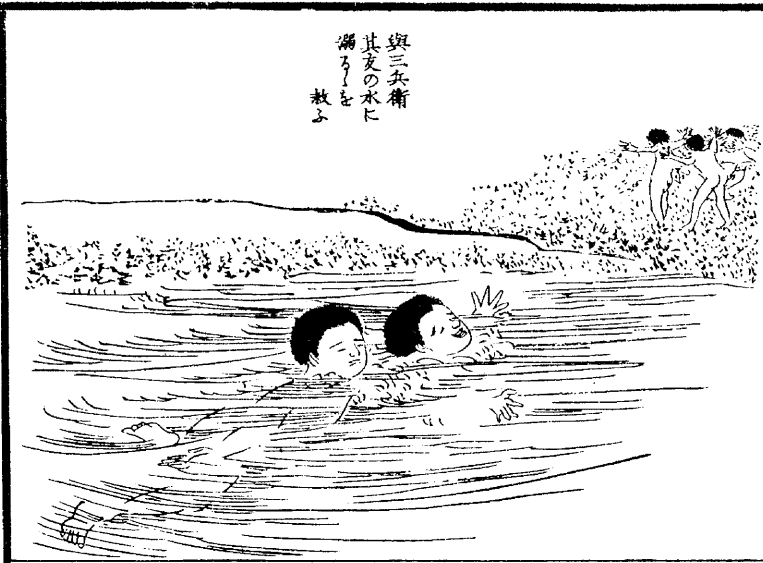
ちやうーや
には。うやま
ひつかへよ。

福徳實
よく
父母を
うやま
ふま



第七課

ちちははや
まひあれは。
かならずト
す。



與三五衛
其友の水に
溺るを
救ふ

第八課

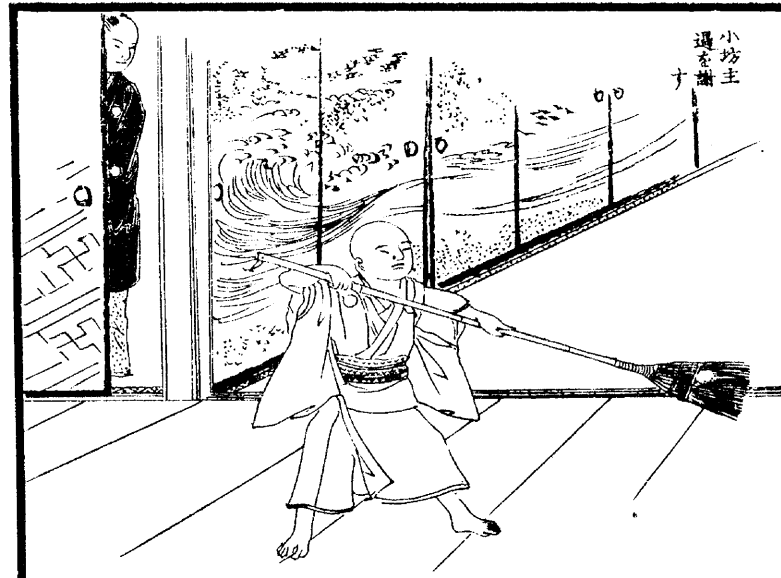
ともは。たが
ひにまこと
あるべし。



女の子
よく
掃除を
為す

第九課

ひと。は。なら
は。し。を。つ。つ
し。む。べし。



小坊主
道を掃

第十課

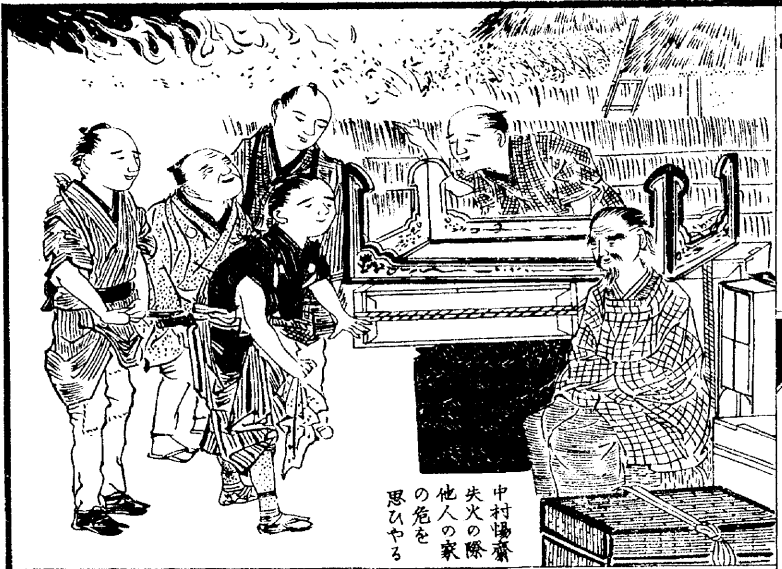
ひとは。一や
 うちきなる
 ぶー。



徳川光圀
侍女に
紙漉場を
みせしむ

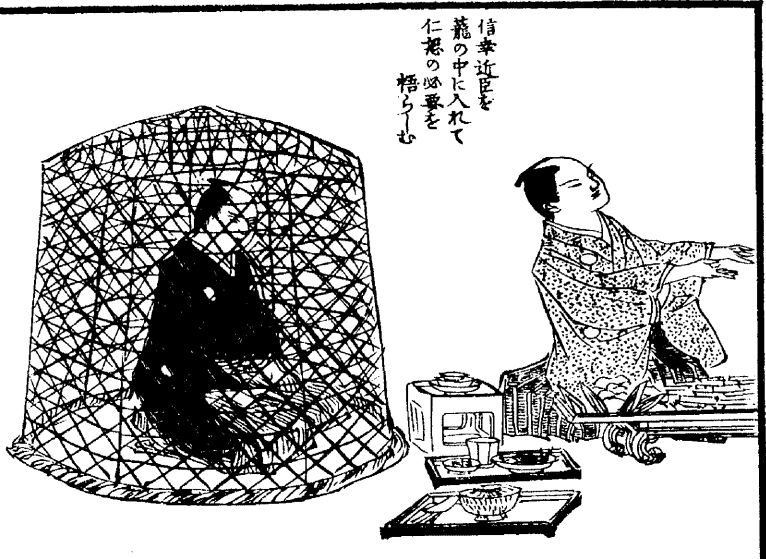
第十一課

つづまやか
 にすれば。あ
 まりあり。



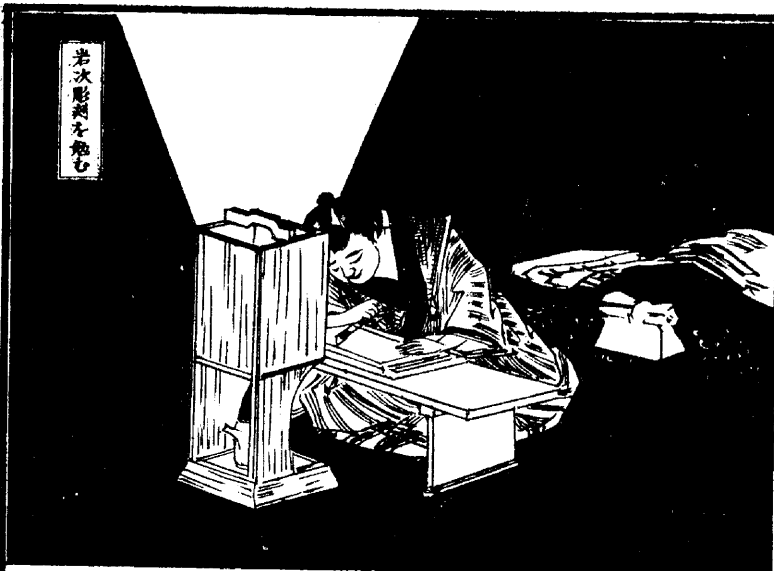
第十二課

わがみをつ
みて。ひとの
いたさをー
れ。



第十三課

わのれをあ
いすること
ろをもつて。
ひとをあ
すべー。



第十四課

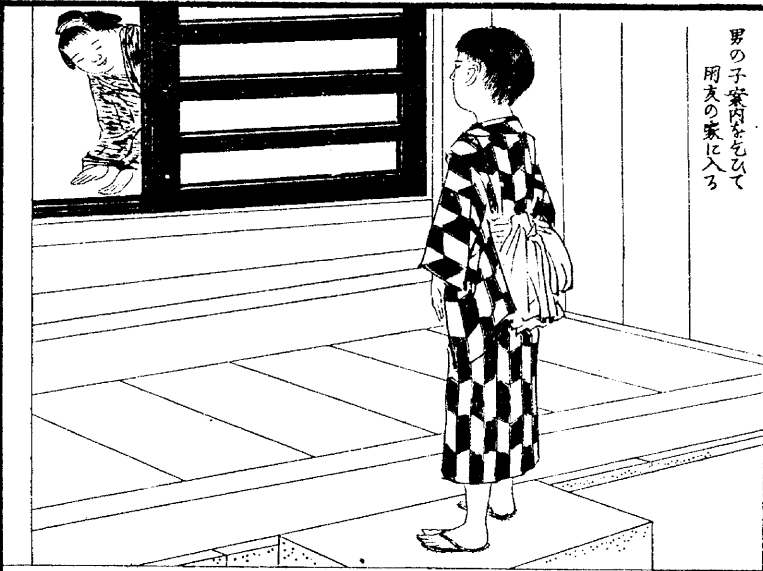
つとむれは。
 ひんにかち。
 つつーめは。
 あざはひに
 かつ。



第十五課

がくもんは。
 べんきやう
 にあり。

男の子案内を乞ひて
朋友の家に入る



第十六課

れいぎをば。
つつしみ
もるべし。

梅葉ゆいたる
栗の實を元の
所へかへす



第十七課

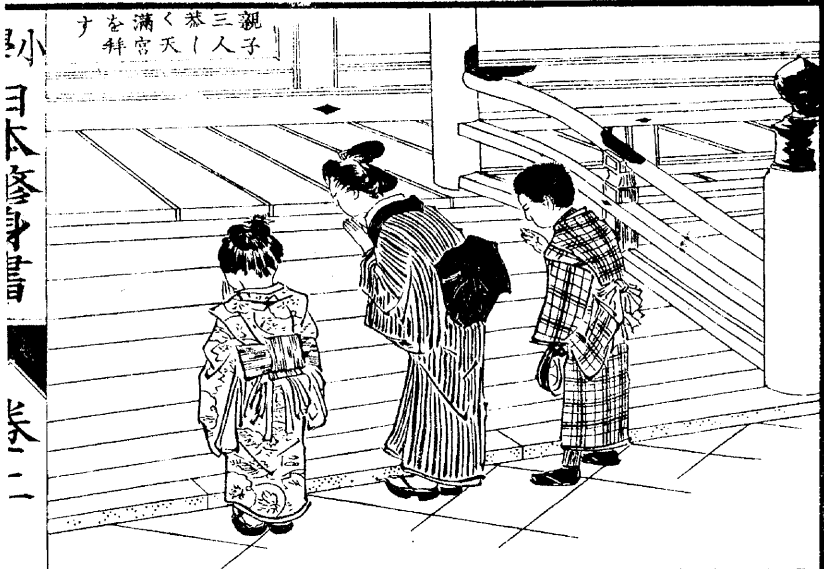
ぎにあらざ
ればとらず。



新七師の爲に
煤拂の手禮を
爲して母に實
せらる

第十八課

しにつかふ
るは。たやに
つかふるが
ごとし。



親子三人
恭天一人
満くを
科

第十九課

れい。な。けれ
は。ひとのみ
ち。た。た。す。



兒女
あき地
にて
遊びを
まじ

第二十課

あやうきと
ころにては。
あそぶづか
らず。

小
學
日本修身書卷二 終

明治二十五年五月一日印刷
明治二十五年五月五日出版

定價金四錢五厘

著作者

稲垣 千穎

東京市下谷區仲徒町二丁目廿番地

發行兼
印刷人

三浦 源助

岐阜市米屋町廿三番戸

發賣所

成美堂支店

東京市日本橋區本材木町壹百

發賣所

石井 鈎三郎

大坂市東區備後町四丁目

